

下松生まれの技術、世界に紹介

● 横浜 ●

山下工業所のアルミ製チェロ

国際会議で30カ国の500人に

下松市東豊井の板金加工業、山下工業所（山下登社長）がアルミ板をハンマーでたたいて成形

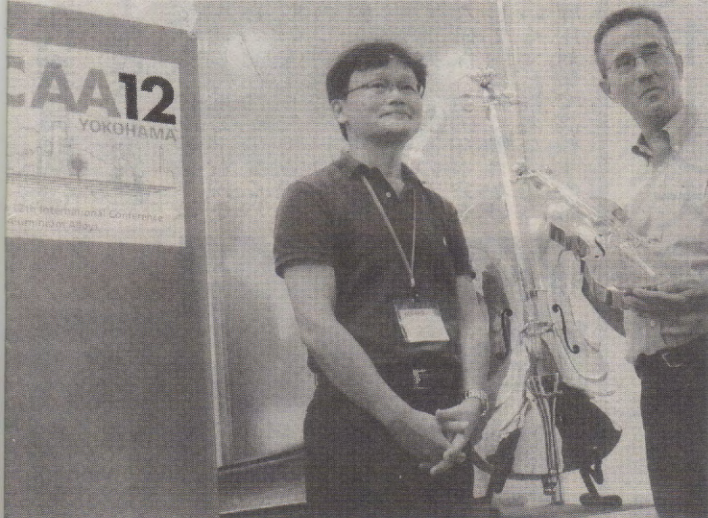
する「打ち出し板金」で作ったアルミ製チェロが六日から八日まで横浜市パシフィコ横浜で開かれた第十二回アルミニウム合金国際会議で展示、演奏され、世界二十カ国の技術者や研究者約五百人を驚かせた。山下社長（46）は「下松で生まれた技術と音色が世界の舞台で披露できた」と話している。

この打ち出し板金は同社相談役の山下清登前社長（74）が複雑な流線型で成形が難しい新幹線の先頭車両づくりに考案した。アルミ板をハンマーでたたくことで微妙な曲線を作り出すもので、この技術で鉄道車両を製造しているのは全国でも同社しかない。

アルミ製チェロは技術力の高さをアピールし、若い人に関心を持ってもらって技術を伝承するきっかけにしたいと山下社長が専務に就任した二〇〇七年（H19）から作り始め、木製より軽いこと▽音量が大きく出ること▽音色がいいことを目指して試行錯誤し、二年がかりで完成させた。アルミ製バイオリンの製作に

も成功し、チェロも軽量化を目指してマグネシウム製のものも作った。今回の展示、演奏は社団法人軽金属学会の要請を受けたもの。八日にパシフィコ横浜ベイホテル東急で開かれた夕食会では読売日本交響楽団の室野良史さんがバッハなど四曲を演奏し、木製とほぼ変わらない音色に拍手が起き、室野さんは「透明感があり、空間を振るわせる音色だった」と驚いていたという。

板金技術を説明すると「手で作るとはびっくりした「素晴らしい音色に感激した」と驚いていたという。山下社長は「アルミ製チェロを通じて長年、新幹線の流線型の顔づくりを裏方で支えてきた職人の仕事の技を国内外の研究者に知ってもらえてうれしい」と話している。



アルミチェロを持つ外国人参加者と山下社長（左）



夕食会でアルミチェロを演奏する室野さん

10月3日・光まつり、今年も盛大に

● 光 ●
パレードは一般の人気投票も

30組が

